収量・品質の高位平準化を目指す

大豆生産組合

大豆生産組合（高橋信男組合長）による臨時総会並びに実績検討会が３月16日に開かれ、生産者ら約25人が参加しました。このうち実績検討会では、粒大・等級比率の実績や今年度の生育状況などが説明されました。

高橋組合長は「今年から数量加算となるため、大豆生産農家にとって厳しい環境となる。今後も研修会等を通して、栽培技術や生産効率の向上を図り、この環境を乗り越えていきたい」と話しました。また、今年はドローンを使用した雑草や病害虫の早期発見・予防技術も計画しており、高品質な大豆を生産する取組を行っていきます。

▲今年度の栽培に向けて協議されました

高収益野菜について学ぶ

園芸部会

園芸部会（畑山悦雄部会長）による、スナップエンドウ栽培講習会が３月24日に生活総合センターで開かれ、生産者やＪＡ、種苗会社など約30人が参加し、栽培管理や病害虫対策などについて理解を深めました。

種苗会社の担当者からは、スナップエンドウの特徴、栽培管理の注意点などについて説明がありました。また、この日の参加者の約３割が新規作付希望者ということもあり、ＪＡ担当者は必要資材や経営収支などについて説明しました。スナップエンドウは高収益で取り組みやすい作物として、当ＪＡで推奨している品目の１つで作付者も増加しています。

▲栽培のポイントを学ぶ生産者

新型農機具で快適な農作業を

農業機械課

ＪＡあきた白神主催による「農業機械展示会」が３月23日と24日、カントリーエレベーター特設会場で開かれ、大勢の来場者で賑わいました。

会場には、農機具メーカーが各社ごとにトラクターや管理機・草刈機等を多数展示。来場者はＪＡ職員や各メーカー担当者の説明を熱心に聞きながら、操作方法や乗り心地など、農機具の性能を確認していました。また、農作業安全講習会も行われ、春作業が始まる４月に農作業事故が多く発生していることが説明され、担当者は「安全点検を必ず行い、体力に応じた無理のない作業をしてもらいたい」と呼び掛けました。

▲乗り心地を確認する来場者

常盤中学校が福祉用具を寄贈

いなほの里

３月９日に能代市立常盤中学校から、いなほの里へ歩行時の負担の軽減やバランス補助に使われる「四輪歩行器」１台が寄贈されました。

同校では毎年、ＪＲＣ（青少年赤十字）委員会が中心となり、常盤小学校生徒と合同でアルミ缶や空き瓶等を回収し、その収益金を使って福祉施設へ備品を寄贈しています。昨年は「ルームマーチ」を寄贈していただきました。ＪＲＣ委員長の山崎斗生さんは「空き瓶を集める作業が大変でしたが、みんなで協力して頑張りました。この四輪歩行器を使って楽しく元気に生活してもらえればうれしいです」と話してくれました。

▲四輪歩行器を寄贈するＪＲＣ委員

蟹座（6・22～7・22） 不注意になりやすい期間。慣れている作業でも確認を忘れずに。大自然に触れることでリフレッシュできます